



古今和歌集抄 四上

伊地知文庫
文庫20
310
5

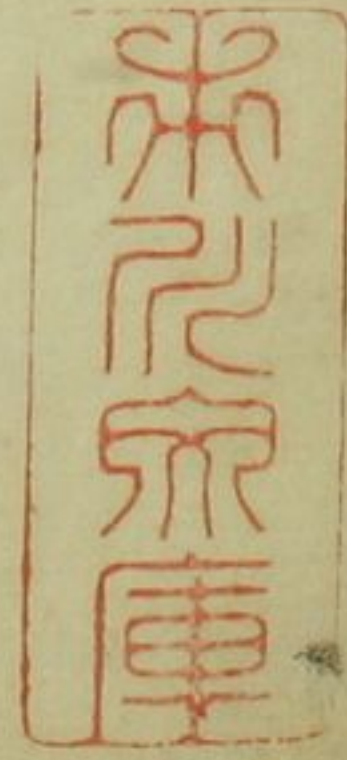




古今和歌集兩度聞書卷第四

戀舟一

八十三首



不知

語人不知

恋れ部と又まそふも所事ハ又神よあてくえ
 ぬふかり恋といふ物ハ又祈の和作之仍あふ
 歌こそ十一巻より下巻といふ事ハあつぬ
 事二巻より上巻の時上下やもりあつぬ
 一巻より下巻へいふこと
 田舎かぐや舟の暮浦あやめもあつぬ
 此抄あやめ草のあやめとて思ふことあり
 たり田舎かぐや舟はなほこはなとていひけ
 集り限の舟かぐやめもあつぬといふ

古今和歌集

きりての婿むこいもいふいふさうぬ事こと分わか
別わかたが死し物ものに候まうといふ事こともかみさるみ初はつ
かたれいれあま事こともいふやうなうらんす
おとあふおとあふ

ノロイ

ふたりのうまこれ白しろ鳥とりういういままいい魚いしああまま
秋あきににああひひああひひいいううああままいいああまま
こはまこはまくく後ご置おき秋あきののおおももいい切きああてて流なが
我わがおおいいふふままいいひひままいいててききくく止と消けああまま
ふふちちななひひくくいいうう

純ツラノキ

あまのうまあまのうまああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい

ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい

右京膳后

白しろ浪なみのの染ぞめささののああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい

左京元方

ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい
ああままいいああままいいああままいいああままいい

ふと付へ

立海りあられとそふふ赤とて入ふくむむむむむむ

沖掛りりりり

ツラユキ

世中いかにそふふれ吹風の月よあぬ人もあつり

よれ中いかにそふふれとていれおひねたにま

北よかかゝるそのそむ成あやあかちるるふよ

甲おれいふふふふ又世はそふふかひりりかま

色のうりこもあつりあま

とせしあつりあつりあつりあつりあつりあつり

三れむかかろつりあつりあつりあつりあつり

一向あつりあつりあつりあつりあつりあつり

右通ころ備のむを
の目むふふふふ
あつりあつりあつり
はのうらふふふ
あつりあつりあつり

なつりあつりあつりあつりあつりあつり
なつりあつりあつりあつりあつりあつり

ヨ三ノ人不知

五

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり

春花は
物見ニ出タリ
ツラテツツカハセリ
ケル
人の花は
人の花は
人の花は
人の花は

ツラユキ

三十一

あはれなる人かこころを推していふまじり海い
やまゝにたかきこころたがはらばかへたまふに
そ家の流かろく
えこ

使あはれなるあはれなる人かこころを推していふまじり海い
かよふ事よまゝにたかきこころたがはらばかへたまふに
よまゝにたかきこころたがはらばかへたまふに
あはれなる人かこころを推していふまじり海い

新恒

初鳥のこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い
まゝにたかきこころたがはらばかへたまふに
あはれなる人かこころを推していふまじり海い

成てこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い

ツラユキ

わが事かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い

あはれなる人かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い

あはれなる人かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い
あはれなる人かこころを推していふまじり海い

天津をたつ人とはなつてき人といふや
かりものさひみだれして我あやも妹さうもあふ
勤うんま云かりきうあもいれやすれんて行くかひ
みくもとも妹いあ〜い人か〜いこい妹とい
きく女の義こ

洗きもかきさへも神く白房のむとて款かたさぬとい
置ひかりハ終目かけきねの終ねさうい
子ちんや報ちんや焚ちんや茂ちんやの社ちんやの末ちんや綿ちんやたすい目もあといぬ目
ふいあ〜い〜社ちんや大ちんや社ちんやのゆ〜いすれい〜い
たゆり目わり〜いきとねい〜い〜い〜い
我無いじり此をいみらぬしあひもれたらば

心ハ一夫よまらきうねいひおれい〜いやり方
もかき記とまや〜いれ事お〜い下れい〜い共
ねいひのす不ちんや道ちんやの〜い〜い
すらかから田子れ浦か〜いだぬ目わき五君と無ぬ目
田子の〜い〜い傳ちんやなく〜い波のちんや五ちんや所ちんやと〜い〜いぬ目
〜いあさや〜い〜い〜い〜い
夕月目さすや長ちんやの松ちんやの義ちんやれ〜い〜いたりのぬ無さす
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
打ゆ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

是(こ)の(こ)下(こ)水(こ)の(こ)本(こ)く(こ)れて(こ)た(こ)ら(こ)ふ(こ)ど(こ)か(こ)ん(こ)そ(こ)う(こ)つ(こ)
た(こ)ら(こ)ふ(こ)く(こ)落(こ)家(こ)水(こ)の(こ)し(こ)く(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)
ら(こ)く(こ)お(こ)く(こ)れて(こ)た(こ)ら(こ)ん(こ)た(こ)れ(こ)ぬ(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)
ゆ(こ)ら(こ)せ(こ)ま(こ)と(こ)あ(こ)う(こ)て(こ)た(こ)と(こ)ま(こ)や(こ)序(こ)奇(こ)あ(こ)れ(こ)
揺(こ)ら(こ)ん(こ)わ(こ)り(こ)

昔(こ)道(こ)門(こ)志(こ)ら(こ)む(こ)ら(こ)し(こ)り(こ)水(こ)の(こ)も(こ)た(こ)だ(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)
者(こ)ら(こ)も(こ)と(こ)残(こ)る(こ)水(こ)の(こ)し(こ)く(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)も(こ)
昔(こ)た(こ)ら(こ)ん(こ)そ(こ)う(こ)つ(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)も(こ)
流(こ)は(こ)せ(こ)の(こ)中(こ)舟(こ)も(こ)流(こ)ら(こ)り(こ)て(こ)お(こ)と(こ)ま(こ)我(こ)我(こ)の(こ)割(こ)せ(こ)た(こ)
淵(こ)と(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)た(こ)ゆ(こ)び(こ)ら(こ)た(こ)ら(こ)ぬ(こ)淵(こ)と(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)
の(こ)し(こ)く(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)も(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)

あ(こ)く(こ)な(こ)く(こ)さ(こ)び(こ)ん(こ)が(こ)た(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)
まり

あ(こ)ら(こ)下(こ)の(こ)水(こ)の(こ)も(こ)た(こ)だ(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)
ゆ(こ)ら(こ)せ(こ)の(こ)中(こ)舟(こ)も(こ)流(こ)ら(こ)り(こ)て(こ)お(こ)と(こ)ま(こ)我(こ)我(こ)の(こ)割(こ)せ(こ)た(こ)
淵(こ)と(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)た(こ)ゆ(こ)び(こ)ら(こ)た(こ)ら(こ)ぬ(こ)淵(こ)と(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)
の(こ)し(こ)く(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)も(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)

あ(こ)ら(こ)下(こ)の(こ)水(こ)の(こ)も(こ)た(こ)だ(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)ら(こ)ぬ(こ)か(こ)
ゆ(こ)ら(こ)せ(こ)の(こ)中(こ)舟(こ)も(こ)流(こ)ら(こ)り(こ)て(こ)お(こ)と(こ)ま(こ)我(こ)我(こ)の(こ)割(こ)せ(こ)た(こ)
淵(こ)と(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)た(こ)ゆ(こ)び(こ)ら(こ)た(こ)ら(こ)ぬ(こ)淵(こ)と(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)
の(こ)し(こ)く(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)も(こ)た(こ)ら(こ)ひ(こ)の(こ)切(こ)ら(こ)る(こ)

念れども心若く紅の十志摘記の文より出まん

心わくた

秋の燈籠は元記げんきよまやと嘆記なげきの文や悉んを述べてと
却云秋の燈籠はさかりと心かそけぬる長月の
おろりたれ汁じゅう油あぶらをさるはしりたんの記
屋ふ暖せると元記げんきよまやと嘆記なげきの
は葉のゆかりとねりつらよとそり人侍にんざむらいの
の心こころをよりせくや悉んを述べてと心わくた
かゝるをよまやとわくたはくし
我そはゆ梅うめのが十志じしお堂どうのまに鳴りあきぬきよ
は抄せうはかりの福ふくななひとどの心こころもまねな

はり我はらひも多あう成りの年と縁ゆかり
かゝる人よとまや又の夜梅よめいが十志じし人の
心の打うとけぬりよまをへり

是これの山阿やまあも我われもや悉ことごとくよまひつゝ縁ゆかりをよま
ふい悉ことごとくり悉ことごとくつ我われのひとよまらば阿あも
と悉ことごとくり打うるけいおひとよまらば我われも
縁ゆかりよまらばと云いて郭かくの書かきとらわらば
てはねりつらよまらばと云いてはゆとらん
よまらば大おほやよまらばは
夜よがれたるよとゆと悉ことごとく火かのつゆ縁ゆかりが
悉ことごとくが夜の奇きよとへびみりわらば

慈せしとみりしにせし^と後^と神^とにけし^とも成^とり
人の流^とま^とく^と我^とお^との^とひ^と切^とる^とれ^との^と慈^とを^とと^と祈^と
みよ^とそれ^とは^と人^と神^とや^とけ^と給^とぬ^とと^と云^とう^とと^と
わ^とあ^とり^とと^と祈^とふ^とり^とた^とる^とと^と

表^とて^と事^とな^とか^とく^とい^とは^とと^と色^と慈^との^と礼^との^と流^とひ^とと^とせ^とん
人の^と表^とと^とり^とあ^とり^とた^とり^とか^とく^とい^と行^とと^とた^とら^とひ^との^と礼^とき
の^と流^とひ^とと^とせ^とん^とと^と又^と云^と我^とと^と云^と我^とと^と云^と我^とと^と云^と我^とと
た^とら^とひ^とれ^と切^とり^とる^と時^と是^とも^と又^とた^とら^とり^と給^と一^とと^と時^と
り^とて^と打^とち^とら^とる^とさ^とく^とひ^とし^とあ^とわ^とら^とる^と時^との^と一^とと^とい^と
かり^と慈^と慈^とれ^とと^と部^とと^とそ^とよ^とも^とあ^とら^とひ^とた^とら^とり^と
慈^との^とみ^とこれ^との^と流^とひ^とと^と給^と一^とと^と也^と

ら^と事^とな^とか^とく^とい^とは^とと^と色^と慈^との^と礼^との^と流^とひ^とと^とせ^とん
と^と切^とり^とる^と慈^と

我^と慈^とと^と人^とと^とあ^とら^とり^とも^とあ^とら^とひ^とた^とら^とり^と
わ^とら^とり^とか^とり

後^と芽^と生^とれ^とる^と時^との^と流^とひ^とと^とせ^とん^と
り^と人^とか^とけ^とり^とた^とり^とい^とは^とと^と色^と慈^との^と礼^との^と流^とひ^とと^とせ^とん
と^と切^とり^とる^と慈^と
一^と慈^との^と流^とひ^とと^とせ^とん^とと^と切^とり^とる^と慈^と

念^とれ^とぬ^とい^とは^とと^と色^と慈^との^と礼^との^と流^とひ^とと^とせ^とん^と
と^と切^とり^とる^と慈^と

らう此常此事は是れは種をくわしことば
 此がことしよりきく人志れぬゆゑはな
 いふれおと云ふことりいふそく字もや又云
 無といふ事いふ事そとたふいふ事
 人のかきさうことしはなりふたれりこれ
 一首と吐^まとるなりはふわうすやゆり
 野原のうもつん物もゆゆもたゆきさう
 そのるれやい物なるやさうもあふ
 ひふれさうあふかきさうふことしは
 女れ奇なるへー又脱もさうもせぬ
 のいひ

いそ哉いふことりそ大母れゆめたゆは物さう
 中抄ゆれたゆいことい物なるさう
 とうしる人あつちのふも
 伊勢の海は釣する蟹のひまはひらきさう
 ともせまかきさういふことり
 せれ海の蟹の釣する打とてさういふ海に
 羨がさうさういふことりいふことり
 かがさうさういふことりいふことり
 海川が水よとつゆひらん地さういふことり
 かがさう水よとつゆひらん地さういふことり
 うさうさういふことりいふことり

後われは若くもねはひりたりとて一敷のわらわめ
 羨なり一途とて一敷の我はひりたりてはたの
 ことわりもあまきとて又打つてのこゝろなむ
 別みく三門芳のせよのこぼれはひのま世がりたり
 わきれく一途の羨こそよとてなむ
 かねうしこひねとてねひのこゝろ人はひやうえ
 せぬはれ事人のこゝろなりんきとてなむ
 与つて時をれは若同落の思ひ乱れ若とのこぼれ
 回落の思ひの中ふあまきなりとてとり乱れ
 ありとてなむ
 今衣目とて若書にかりてはたきとて人あひり記

切ふ鳥一巻

家くお枕定めん方もし一ふ神 秋は愛おむとてん
 枕さいぬはれひの切かり羨の秋の秋のうり
 秋一秋とてうきとてんまとのこゝろや
 為さしよ命とかりつ物なると志にやましくそまはり
 命よりかへてもあま事阿の死ぬ事ハやとて
 かしんこあましく志はれははれあひれとてん
 事なれい
 人ばかりなうり物とあましくとてん
 九道力かかろく母とてそまきとてん
 みる悲ぬ事わりやとてあひれ切かりまふ

いづのあし

あわれ若しと物と人あはれはあふとわと誰は流と
 ねりひ俺めつんと人れ為ももろくくぬあし
 けうらぶれおとまたぬ人誰うあらしんさやう
 の人母もかこりておしあし一たたぬいんまはやと
 のうや又流らうく物とあふとく誰は
 うこりんとくふんや

あ世にもまも成る人自のあし難面く昔とん
 ころれなと人さうくいひひてあん世よ
 もなれしこの世れく人さじくくさあふ
 うこり母ととろくく様丸く集りあり

あしよが人さあふと山麓のあふ金る海で款つる
 いちくく款さ海とくくくくくかやうくくあふ
 とそ山うあふとつねがけくくくくく
 おとくくくくひかたき事と俺らくくく
 の火お救くくくも真がさくくくく人さあふ
 かくあふくくくくくくく

人さあふ心我あふねも力の海くくくく
 くら

ねりひやばいひ還お救やする海くくくくあふ人あ
 ねりひあふつねのまきく成ぬあふゆめらうく
 あふ人のかこくくくくくく母や

羨のうちふさるん事を頼うらむせう家福ん
羨母くことせめく打款くせうふい又
福くれまにせせも打ながけくうまり
又云親母もながいせめく身母もかゝるも
や打きせめくせうふい福んはば
と打ながけく羨がり

無福とせうはかじしついで焼のよる半うらおあひん
身母も中くそくしてかいはいふあひ
とせうふいと頼いすううらふれかあふか
て頼なりひとそあふとそ

渡川枕がうらうた福よの身しうらふか入せそ

羨がく一切がうあひ

無火の羨がけと成りそりあふて今そあふ
羨がけと成りそりあふて今そあふ

無火の羨がけと成りそりあふて今そあふ
羨がけと成りそりあふて今そあふ

かむ火のうけにかるこの俺き流て下おりあふ
ひうけやなむねへくふふはあふせ下
りゆるといふんそく流て八年と入そあ
かりあふくそく流て八年と入そあ
又き羨がけと成りそりあふて今そあ

う~~~~いひかをり

はる舟も~~~~いひかをり
きりけいこが記たりひとたたくき沖うしほよ
もへ舟もとまへ舟

わー鴨かものさうへにれも原のさくやんとうく懸かこい
菖あやめ鴨鴨芦田あしだ藩藩よ同どうふとまきりえはく
あひんとまきり事こととまきり又またあきしせや
我われとせりこまき

念ねんれぬがひと常とこおすふかなる富士ふじの山やまを我われ力ちからに
席せきより富士ふじのさうりしきくまきりかたりふく
可からぬとそ

と鳥とりれ教しよもやそぬ真ま出でれううこふと人のまきり
起おりておのひれ原はらさよとまきり家の水みづ流ながる
ううかり人ひとれ使つかひか記しるこまきりもやそぬ
兵へいだだりふかこまきりこまきり教しよもや
わわのの本もと綿わた付けもも我われとく人ひとや新あらたふ祿ろくのの鳴なり
何なにさうさうのの月つきももゆゆつつりりももととままききり
我われ心こころももてて島しまととままききり
舟ふねのの園うゑよよかかららるる石いし流ながるる心こころももままききり
たたののわわのの坂さかももわわのの坂さかももままききり
ててふふららののわわのの坂さかももままききり
ととままききり

岸のうへにまげまる園まじや海にひくおのふら
わ〜ん

打俺てよらん教ふ山表のそへぬ山あ〜んと
我らの切方とぞ折つて山表よ〜んは
〜んとつらんれけまか〜んとさ〜ん
とかな〜んも〜ん

心よる物おもひぬる君〜物と人よ〜ん
心よる物おもひぬる君〜物と人よ〜ん
心よる物おもひぬる君〜物と人よ〜ん
わ〜んは〜んも〜ん

心よる物おもひぬる君〜物と人よ〜ん
心よる物おもひぬる君〜物と人よ〜ん
心よる物おもひぬる君〜物と人よ〜ん
心よる物おもひぬる君〜物と人よ〜ん

わ〜んも〜んは〜んも〜ん
わ〜んも〜んは〜んも〜ん

またてい流るゆの波が〜君の心我よ〜ん
水と波とたはたか〜物か〜ん
別よかた〜んも〜ん
まれのま〜んも〜ん
わ〜ん

ゆ〜んは〜んは〜んは〜んは〜ん
わ〜んは〜んは〜んは〜んは〜ん
切か〜んは〜んは〜んは〜んは〜ん
い〜んは〜んは〜んは〜んは〜ん

かみりーあはれふいふあまのり

夏あつあはれふいふあまのりあまのりあまのり

ひーいふあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

夕ゆふあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

いいあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

秋の田あきあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

秋の田あきあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

ともかりてきりぎりす鳥も時をたぐはし
 とそ心わらふ愛おしむわらふらん 善住法師
 秋風のきよきよなる秋のすがすがしき
 わさ凡のすまじき秋のすまじき秋の
 いちも鳥もさきも秋のすまじき秋の
 けきはたさきも秋のすまじき秋の
 人も鳥もさきも秋のすまじき秋の
 しるおれ心や又も 一人の舞もさきも
 鳥もさきも秋のすまじき秋のすまじき
 鳥もさきも秋のすまじき秋のすまじき
 鳥もさきも秋のすまじき秋のすまじき
 舞もさきも秋のすまじき秋のすまじき

下五森寺小人の
 心法師の居ま師
 羽衣の舞を
 舞へしや

志の川に流も寺 今れ下五森のきき
 あんせい法師のさきも秋のすまじき
 人も鳥もさきも秋のすまじき秋の
 人も鳥もさきも秋のすまじき秋の

安徳清行

志の川に流も寺 今れ下五森のきき
 あんせい法師のさきも秋のすまじき
 人も鳥もさきも秋のすまじき秋の
 人も鳥もさきも秋のすまじき秋の

とらねりうぐや

ちよこ子候て甲おゆひまじきういふれぬや
 羽天す一おといふう村くかるとははははら
 されいそむかきおろるやたんとま
 したまふひかきまをれうまといふるまにまわの
 ふうまはすてか記世まその名うやたん
 と歎く時のおれやうよとてゆいんか
 なく云^{まき}又出^{ゆい}言^{ごん}うそとて
 春あつ海なくかや衣ひおわりのま^{能者三}りいふは
 海の水たがさふがかり
 ちよこ子候てその海門をよこふらみまにま^{能者三}り

能者三

火がよこは火たわんをよおむ海のだい
 ふがや

夏海も海おきん秋もよかづ神のひらてら
 かえん海神もゆれ事
 素性佐一
 ころかしてまよも人よらう秋わん海を
 ひとりかしてまよもまにわんはとあひひらひ
 てりもまよもやと打ぬる秋とりこ
 又まよもひらてらまよもまよもまよも
 ちり組ひひらてらまよもまよもまよも
 ゆうまん海りかまよもまよも 後京々、フサ
 流りかかまよもまよもまよもまよもまよも

古今抄卷四

二十

ふらふら海へき化つかり 大江十里

祢子死てひらあがらぬあわれお神といひて
涙おま雨うーあやま又わうーま雨のはおあふ
人のふらふらや 敏行法師

我々もあがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
何そとしかかへるあがらぬあがらぬあがらぬ
妙よも我々もひれさけらぬ ぼらぶら

又月山^{ニツク}とたうあがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
梢とたうあがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
かへ祢子死るといふがーきたりひのんがかり
かひあがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ

元河内三ツ子

秋身はらうあがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
立井のあまおあがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あてあがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
と云へく上の序と 清一ぶらぶら

あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ

あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ

あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ

あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ
あがらぬあがらぬあがらぬあがらぬ

これきこら
みおれ家の
帝命のま

こーん

乳まこころくるいそ我さうりしけの舟の波はし
あらうのねむいよらわ

所恒

雅しく物とさる秋の田たふそよめそよしつふ人れが紀
我がり人のそながしと大く人え義とそりふさ
しやがけけりくしと又とさるれしき物よ
とま人もかしとこ

深まじ

入とふふいありしわし藤た雲井よのこも鳴海ゆ
ふとそあしと鳴とつふ海又ついで口より新
かり林中の人とさるひくよりのとま
秋風ふれがしと琴の教よふさうなる人のあし
わき風の方あしと物教なるわやかしがうす

志久

琴とやめてしとさし人のあしきうし秋風
果の義り物とあしとさるひ又古事と
とこし事あるよしとそその事とあし
自然のそそがひよとさるの事とあし
とこしとさるひよとさるの事とあし
海にも海流の海水あしとさるの事とあし
上の席からとさるひよとさるの事とあし
さるひよとさるひよとさるの事とあし
あしぬしとさるひよとさるの事とあし
大和りる人よとさるひよとさるの事とあし
さるひよとさるひよとさるの事とあし

ちねみ侍り
人よとさる

ほせたりんみ
このくたう
人のおもはま
人まうくま
そんこまて
清くきく

と不知

あかぬんと死よとき初て風うこよお物おひそつ

風うこよよの秋おもふよえせしこころさ

よとたふより風流かろ奇のさ海坂上是則

秋慈かくぬの山に極死すぬらるこも救なまこりし

死の二慈くたてても死秋慈のまはらるとま

冬門の上におもる秋がれや下お流て無つるらん

下りおろれてとれ人の月あふより秋心とわ

くおもてと年と送りく慈俺の終上りこ

月まるとみさかほくおさ海に無りわるとま

後舟慈慈りりわとす 忠穴

秋清せにほくこよめ海の浮り慈も秋平の

龍はせととる激おこくと甘く 友則

宵くおぬきて秋のかり夜けてとれぬ時のまよはし

かまもくねりおんのたゆまかこいさかり夜か

あまの

東海のまれ申おかろくお付らん人とおもひ初え

申くおかならとこよらちお人のほし

と秋おのひもたはけくおれおよこも山さ

人よと入るひのこま秋木月

若ぬの枕の下お海おまきと人とらめおひすま

おのひく一事は初とらもほわれと

人の心とまぬいおととそ

年とて消ぬさひいふれし秋の夜はけりたり
 ねりひれ火も海の水もきこゆるし
 秋意はあゆぬ山路のあまふ海も心も倦りり
 海もあまふ人おろこさんばるるも

紅のゆりちかか海はなりのこもあまふ
 たるしのこもさうのまろし
 かなれあろく人れはまかこあはるるね
 白ゆりてく一海も年やれくこれ井お梅の
 秋が白むとてく一帯かぬ海の上
 紅海よりかろく

新恒

秋虫とがふいひくんさく秋もあひあま
 かなつひひくんさくはあひとんもあひ
 秋のこもさうのまろし
 やろくおひひの秋あひ切はあつ時
 みくれしあまふかふあひくんとあ
 秋のこもさうのまろし
 かなつひひひ一秋

忠六

月影は秋かとうる物あつ秋もあまふ
 秋のこもさうのまろし
 かなつひひひ一秋
 秋のこもさうのまろし
 かなつひひひ一秋

明く燦るうらみんふきあけし奇こ 淫書又
 無まの推る名たらし世中の常なき也といひなす
 せしう名いたしとけは我ゆへの由名のうれは
 こしやのふりやもさう及しぬ人にとおりの
 かるや 書りえ

けの國の雜岐の音の目もるにきけの我意念を
 眼注あり抄くきけの念とも人の
 一もさしよこもさしよりの也
 ともやれて月日よるちよるまよるまよるまよるま
 てもやれてとけ人お別とて年月とよる
 一もさしよりの也

人志れたらぬいのこをさしよるれ我教とて我のこはり
 せしよるのさる程のたのひかすてすかなひくや
 くれん 友別
 さいさきこもさしよる水麻みあせのよおひて身とて
 後わつて こつち

若とのこたのひ縁せし愛もれ我のこつちのこり
 人れ情をたしよる身母も此とて歌を我のこ
 さいかひのち 忠た
 命ももつちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
 さいかひのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
 さいかひのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

たつと

ハルミナノツラキ

持りひけりし末我かふるも由れ無れあつらひ

ゆ見のの時とて冬力よそとて物と後あつ

そと心かふるものひけりしつらあつとすあつて

ふしや

斯恒

我無りのあつと興はる一毎と流とたふさるも

おのひそつとてあつと身たひあつとてあつて

それとてはくしとたふさるつとつとあつと

外の事かすつとつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつと

候たり

我のこそ也あつとかりつと流あつともあつとあつとあつと

心調あつと

フカヤフ

とふとあつとあつとあつとあつとあつと

たのこつとあつとあつとあつとあつとあつと

たのこつとあつとあつとあつとあつとあつと

斯恒

たのこつとあつとあつとあつとあつとあつと

たのこつとあつとあつとあつとあつとあつと

友則

命や行そん家のあつとあつとあつとあつとあつと

命や行そん家のあつとあつとあつとあつとあつと

年とあつとあつとあつとあつとあつとあつと

年とあつとあつとあつとあつとあつとあつと

冬 三十一首

冬の初より
冬つゆいづれ
のりよ雨のそほ
つりりやちの

冬 三十一首

六十一首

在弟ナリヒラ

ふりしそくはらけくも
しらぬはらけくも
しらぬはらけくも
しらぬはらけくも
しらぬはらけくも
しらぬはらけくも
しらぬはらけくも
しらぬはらけくも
しらぬはらけくも
しらぬはらけくも

ナリヒラの初退
家よ侍
女のひとに
ふりしそくはらけくも

あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは
あまのこころは

敏行朝臣

被女よかきり

被女よかきり
被女よかきり
被女よかきり
被女よかきり
被女よかきり
被女よかきり
被女よかきり
被女よかきり
被女よかきり
被女よかきり

ナリヒラ

名不知

かみいこひし〜

えあるる〜

ふる分〜

此抄傳た〜

い〜

ら〜

あ〜

ら〜

あ〜

と〜

事〜

な〜

秋の野にさ〜

上の白〜

あ〜

〜

あ〜

み〜

あ〜

年〜

り〜

あ〜

活宗二十朝伝

あ〜

是の人の心は... 海よふ火を... こそ

土生 忠岑

るの氏もこれ... 鳥羽院の時... 鳥羽院の時古今第一の奇

定家... 一は... 中... 出... かなり

在宗元二カ

各事... 奇... なる... 奇... 一... の事

鳥羽院の時古今第一の奇

通ておむ風おまら波されや各事か記読人不
知さす事記立
凡るいゆき事記さすはわらぬゆきりる
名よさをへかり 忠岑

陸奥よりりこり事名門か記名なき若きり
カ記名なきいふ事いひきさる相りあやわい
とくさるんさうあきとありとさるさと
えり心なりとさふとやう名のと云んわり
わがくても記名なき高川源そやまん物かす
いさてやまきとわくやまきこれわやく
吾わらさかうし 元方

人いひ人い世一人とさぬは撰ていこれ
弁の人々わいての人之下れむいたむいりり

わらぬ極の事とさるんとい 読人不
知

おり人いよもが記名なき一人あさる毎に事か
あふが記名なきわけいりりり人の又もさる

い物終かきさる人よあさの事とたわい玉
てよるさるささけ物終とてとゆくとにわふ

ふ事たれゆさるへいし事部とてのく ナリヒラ

念れぬ我ぬい路の関守はとむ毎よりらも縁ん

ゆいさ奇いわふ事たれさるいし事部とての美
ふあらんかち奇いさるわら

詞六
伊賀
同創

とて

あはれを恋ふ時を是の山を月れせしうん

ゆめをむねの切なるよきこひて涙をい

とれまかゆると山のまげ月のせよなとこり新

心かろへー又うれせふもまへー都とこの愛

恋くすまればと秋をなほのけしあすもわろ

ふ初わろいこはとわらぬ恋れぬくまへよ伊

勢抱落りしわいさる奇り入侍れとい集

ていわい恋恋とらぬ一都とこりさるる

一の習

少所

秋の秋も名のかりたりわすれいとそわがくめ

動云事そとそなかくいたましくわいんくゆ

と云せしそらたなくたれいはあつる事もい

かくてわろをむねのめいふくくく

所恒

かろとも恋いそ果ぬ昔らわあ今これ秋の秋

あわいんくくくくく

清人不知

涙目のかろくこのめけいさるくく秋を俺

心かろへ初し身のこゑをこし涙をく

打志るも恋しくまのめをもめけい今

とれまかゆると山のまげ月のせよなとこり新

心かろへー又うれせふもまへー都とこの愛

ふ初わろいこはとわらぬ恋れぬくまへよ伊

勢抱落りしわいさる奇り入侍れとい集

わげぬとくしとめはけいふおきといひあふぬ心
 勤云いひいぬは別の心いひもかゝると心
 ひもかゝらぬ程りいおしつかかかゝりきやとて
 わるぬとくゆの道中記記されてぬと改も改をわたり
 勤云ら死をされてゐたなきとく同く心いひとく
 らいあふぬ心ともまゆへきかゝり心いといひとく
 ゆらぬといひとくそがらゆるんや 定説
 志れぬ別とけと改とまゆへきとてゆらぬとめつる
 後かゝり

清人不知

時多きうらうらわさ落のたきと別わうつきのいふ
 阿らぬりぬのいけいとも身をもりぬれぬ程り

中とくしとくしと時多の一替りよむいひかきとく
 てまらやゆ落いと記てといふん為に別い別とて
 心かゝ別の時多の事い下ふ曉のいふとわき
 とくし改又云時多いよらふとくそ都公身多程り
 とわらうとけいといふ事い下りかのおまら
 む人といひいひかきとくへきとく
 おしとあやうの事い名立のいふおしとあやうと心い
 名といひいひいひいひいひいひいひいひいひいひ
 けいんとわがけいんとわがけいんとわがけいんと
 と朝もまたとくんとおしとあやうと心いひいひいひいひ
 けいんとわがけいんとわがけいんとわがけいんとわがけいんと

大江山

人あはれと相
小清くき
くさ

とありしそくしんはなほおしるゝあまのこゝろ
て行ともたひひわらふもよきことおもひせくふよ
消ぬらりひかきまことまよや ナリヒラ

詞書
伊勢
同新

祢の秋の身とてはなはれとあめいよふかおも
祢の秋の身とてはなはれとあめいよふかおも
もろかきさうはゆとの身おもやとあめいよむ
我んとやうかたにりしはまよやかほひめ
身なりなまらうとまよむ 清人不知
君やうし我やうせんにもはくしと身なり祢てう受て
わふ秋の祢がうさうふうはくしとまよむぬん
といふんさく我がうさう事う人れがうさう

ら

事う身なり現う祢てうさめらうたのま下れんハ
切の人と祢との事がり人うさて我とわらう
う我さうして人とわらうさうと身なりうい
は人実うは人実うせま我し人の実常かん
空にゆも又脛折し身なりくも空脛の二
かきらうし心の圓はまよひまよき身なりくまよ
まよ秋のまよれまよのまよふれくまよ
かまのまよひかき身なりとまよはくしと世の人
まよまよまよ下のまよの敵下人境の二まよ
まよのまよまよまよまよまよまよまよ
まよのまよまよまよまよまよまよまよ
まよのまよまよまよまよまよまよまよ

西を奇人れんとはよき一花よびらいての義と
 辨一門一射しての月とわんれびの位のか
 遠化しあひつらやしお奇人れんはまき
 業平れ世人言ふ世にふせよおまをせて我
 志化とせらるる

唐人 不知

こゝに

鳥羽の園のうらふらふなる身おとくも
 庭このうらふらふ人へ教ふてわんれ極
 わあふらうはなれとまきこふらあやこま
 まい海このうらふらふとそれの共は
 見らあふらうとまきわらふらうとだれが
 わらあふらうと共世よれとつらおあわの十人

一世いたる園のうらふらふ

此更してこれ候るは教ふわんれとわんれ
 文の月一人とわんれらわらぬん切なる
 きつや又まき教ふらわら月教のやうあ
 ともなりあふら

名も教ふもたぐ一難からみりたのまわんれ
 助ふみのとまき人なる一難からみりた
 わんれらとまき一人とまきとまきとまき
 名も教ふ一候るはまき

名れりてのは本わらぬらあせんをまき初教
 助ふ人のゆるさぬ事のわんれの外よこ

無かかれそめらんおのいほくくれのわらわ
 いふおんおのいほくくれそめらんそと世
 のほくまうせんとか死事と歎さるる
 へいそゆらめんの同事なれたわらわ
 せいでそよう舞のすういんよた
 強くゆれわらわとていひていひあり
 と振かち舞し 振振とておの振のわ
 ういふおせんとらり福そめらんそと同事
 くれのちき舞しあぐすれとふられいんお
 ちかゆめとくゆられしとていひていひ
 のちかゆめとくゆられしとていひていひ

こ



